

主催：財団法人 大学セミナーハウス

東京外国語大学中東イスラーム研究教育プロジェクトの一環として

開催日：2008年10月4日(土)～5日(日) (1泊2日)

場所：八王子セミナーハウス (東京都八王子市下柚木 1987-1)

イスラーム世界における「他者」との共生 —宗教・宗派・民族の相違を超えて—

開催趣旨

本セミナーでは、メディアでは暴力的と報じられることが多いイスラーム世界において、宗教・宗派・民族の相違を超えて人々が共生している4つの事例を紹介します。他者同士が共生するためには、相手を理解しなければなりません。そこで基調講演では、アラビア語が重要な役割を果たしているイスラームを日本語で理解しようとする際に、知らないうちに陥りがちな誤解の可能性のいくつかを示したいと思います。まず、「アッラー」は単純に「神」と訳してよいのか、という問いから始めましょう。

■基調講演

アッラーと神

—日本からイスラーム世界を見ると—

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授/所長 大塚 和夫

■セクション演習

A 多民族地域「中東」における国づくりと国民アイデンティティ —イラン、アフガニスタンの事例を中心に—

東京外国語大学外国語学部教授 八尾師 誠

民族の増殖といわれる中東・イスラーム地域にあつては、諸国民国家の壁はますます高くなり、国民国家体制は一層強固なものとなつてきているかに見えます。その一方で、「民族」と「民族問題」の存在はそうした既存の枠組みや体制に対する強烈的な反発要因であり続けています。そして、それぞれの国家における国民アイデンティティのあり方を大きく規定する重要な要因ともなっているのですが…。

B イラクの社会構造と「宗派対立」？

東京外国語大学大学院地域文化研究科教授 酒井 啓子

イラクでは、2003年の米軍の攻撃以降、治安の悪化に歯止めがかかりません。メディアではこれを「宗派対立」としていますが、本当にそうなのでしょうか？フセイン政権の独裁のもとで社会がどのように解体され、個人が社会から切り離されていったかを理解しなければ、現在のイラクの混乱は理解できません。現在のイラクという国が抱える社会的政治的矛盾を、「石油や宗教といった、わかりやすい、ありがちな視点」ではない形で、考えていきます。

C 東南アジアのムスリムと仏教徒

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授 西井 涼子

東南アジアは仏教徒がマジョリティを占める大陸部と、ムスリムがマジョリティである島嶼部に大きく分けることができます。この仏教圏とイスラーム圏の境界に位置する南タイを中心に、日常生活において宗教はどのように実践されているのか、ムスリムと仏教徒といった異なる宗教を信仰する人々が日常生活圏を共有した場合にどのようなことが問題となり、どのような関係を取り結んでいるのかを具体的な事例から考えてみたいと思います。

D 『西洋近代文明』とイスラーム思想

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授 飯塚 正人

9・11事件以降、アフガニスタン戦争・イラク戦争を経て、ムスリムの反米感情がいよいよ高まるなかで、対立の原因はしばしば、西洋近代文明とイスラーム文明の価値観対立に求められてきました。しかし現実にはイスラーム思想は19世紀以来「西洋近代文明」の多くを取り入れてきており、そのことの評価をめぐって、いまやムスリムは思想的に分裂しているとみることもできます。このセクションでは近現代のムスリムが「西洋近代文明」をどのように評価してきたのかを確認しながら、両者の共生の可能性を探ります。

国際教養セミナーの目的

「知ること」から「多文化共生」の道を探ってみようを出発点とし、グローバル時代において身近に感じる異文化等の問題をテーマに選び、学生や社会人を対象とする合同合宿セミナーを行うことによって、国際教養知識を学ぶ場を提供し、現代の国際問題や様々な現場で発生した文化摩擦の解決の糸口を見つけるよう、国際社会の一員としての日本人の適応力を高める機会を提供することを目的とする。

【企画委員会】(五十音順)

企画委員長 大塚 和夫 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授/所長

企画委員 川田 順造 神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員 花澤 聖子 神田外語大学外国語学部准教授

古矢 旬 東京大学大学院総合文化研究科教授 渡邊 啓貴 在フランス日本国大使館公使

大学セミナーハウス担当理事 鈴木 康司 日仏会館副理事長、中央大学元学長

プログラムの概要

10月4日(土)

12:45～13:15 ……………受付
13:15～13:30 ……………開会
13:30～14:45 ……………基調講演
14:45～15:15 ……………記念撮影、コーヒーブレイク
15:15～16:45 ……………共通セッション1
(セッション講師講演)
16:45～16:55 ……………休憩
16:55～18:25 ……………共通セッション2
(セッション講師講演)
18:25～19:25 ……………夕食
20:00～21:00 ……………セッション演習1(分科会討論)
21:00～22:30 ……………懇親会

10月5日(日)

8:00～9:00 ……………朝食
9:10～11:40 ……………セッション演習2(分科会討論)
11:50～12:40 ……………昼食
12:40～15:00 ……………総括討論
セッション提題
パネルディスカッション
座長:大塚 和夫企画委員長
15:00～15:15 ……………閉会

【募集要項】

募集人員:50名 参加費: 学生8,000円/社会人10,000円(宿泊・食事代を含む、税込み)

申込方法: ホームページ (http://www.seminarhouse.or.jp/seminar_b/2008/04/2_1.html) 掲載の申込メールフォームに必要事項を入力の上、送信して下さい。参加確定した方には折り返し参加決定及び交通案内などをお送り致します。なお、ご不明な点がございましたら、お気軽にお電話下さい。

【お問合せ先】 大学セミナーハウス企画広報担当

〒192-0372 東京都八王子市下柚木 1987-1
TEL: 042-676-8532(直通)・8511(代表)
FAX: 042-676-1220
E-mail: kyoyo_2@seminarhouse.or.jp
URL: <http://www.seminarhouse.or.jp/>